



「やさしく かしこく たくましく」

「子どもたちが前向きになれる言葉かけ」を大切にしていきたいと思います。

先日、県外に出張させていただいた際、「PEP TALK!」(ペップトーク)に関する講演会を聴く機会がありました。「PEP TALK」とは、「誰か他の人を前向きにする言葉かけ」のことで、短くて、分かりやすく、肯定的な言葉を使い、人の魂を揺さぶり、その気にさせるトークなのだ、その講師の方は話されました。大谷翔平選手が、WBC決勝戦前にチームメイト語ったスピーチも、ラグビーワールドカップの奇跡の勝利の試合前にジョセフヘッドコーチがチームを鼓舞したスピーチも、このペップトークの条件を満たしたスピーチとのことでした。

事実を前向き(ポジティブ)に捉えなおしたり、してほしいことをイメージできる表現を使ったり、言葉の変換を行っていくことが必要だとか、Yes、No で答えられる質問ではなくいろいろな答えが出てくるオープンな質問にしましょうとか、様々なポイントを話されましたが、結局のところ、「子どもたちが前向きになれる言葉かけをすること。」が大事なのではないかと感じるお話でした。

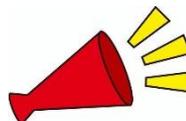
我々、大人が子どもたちにかける言葉かけは、砂に水がしみ込むように吸収され、子どもたちの心の幹になるのだそうです。そう考えると、私たちは、子どもたちが前向きなイメージが持てるような、やる気が出る言葉かけを意識していくことが大切なのだと思います。「子どもたちが学習する力やスポーツの力や技を磨くことから、先生、保護者は、それを応援する言葉の力を磨いてください。」講師の方にこう言われ、言葉の力を磨くことの大切さを再確認しました。子どもたちがたくさんの前向きになれる言葉をあびて、さらに成長していけるよう、学校、家庭で協力して取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

2019 ラグビーワールドカップ
日本対アイルランド戦前 ジョセフ HC

誰も勝つと思っていない
誰も接戦になると思っていない
僕たちはどれだけ頑張ってきたか知ってる
どれだけ犠牲を払ってきたかも知っている
皆は、準備できると分かっている。
僕も、今準備できていると分っている。
仲間を信じて、自分を信じて！
さあ、行こう！ワンチーム。

<子どもたちを前向きにさせる言葉かけのために>

- ・事実のとらえ方を変えて別のポジティブな表現に言い換える (例) 難しい⇒やりがいがある
- ・してほしいことをイメージできる言葉を使う (例) ミスをするな⇒思い切ってやれ
- ・できることを言語化する (例) 勝ちましょう⇒勝つことだけ考えていきましょう
- ・ペップトークの構造例 ①事実を受け入れ ②とらえ方を変換 ③してほしいこと ④背中の一押し



持久走大会

保護者の皆様、11月13日(水)の持久走大会に、たくさんの応援をいただき、ありがとうございました。

持久走当日のがんばりだけでなく、これまでの努力についても、ご家庭でも話題にして、子どもたちの次への意欲につなげていただければと思います。

